

授業科目(ナンバリング)	スクール(学校)ソーシャルワーク演習 (DB321)			担当教員	安藤 佳珠子 坂本 雅俊		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業の目的は、学校において児童・生徒が抱える問題に関する事例に基づき、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを通じて、スクールソーシャルワークにおける相談援助の知識と技術を理論化して体系立てていくことができる能力を身につけることにある。また、ディプロマポリシーにある社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、学生がソーシャルワークの知識・技術を、自分の言葉で説明し、他者が理解できる表現の仕方について、具体的に学ぶことも重視する。さらに、この授業は、スクール(学校)ソーシャルワーク課程履修予定者には必修であり、次年度のスクールソーシャルワーク実習の準備段階でもある。そこで、この授業では、事例を通じて、スクールソーシャルワーカーに必要な援助技術について整理した上で、学生がスクールソーシャルワーク実習で取り組みたいテーマについて具体的なイメージをもつことも、ねらいとする。							①⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	模擬研修会を実施し、自分で設定した内容を適切に伝えることができる。				模擬研修会の実施		15%
情報収集、分析力	事例を通じて、グループでディスカッションした内容や教員からの指導を適切に理解し、そのなかで学んだことを、正確に記録することができる。				演習日誌		40%
コミュニケーション力	事例を通じて、スクールソーシャルワークにおける具体的な援助方法をグループで議論することができる。				グループディスカッション		15%
協働・課題解決力	スクールソーシャルワーカーに必要な援助技術を説明した上で、スクールソーシャルワーク実習で取り組みたいテーマについて説明することができる。				第1・3回レポート		15%
多様性理解力	佐世保市青少年教育センターのスクールソーシャルワーカーの話聞き、実際のスクールソーシャルワークについて理解することができる。				第2回レポート		15%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験は実施せず、演習日誌40%、3回のレポート30%、模擬研修会の実施15%、グループディスカッション15%で評価する。演習日誌は、事例を検討する回に復習として課され、グループでディスカッションした内容や教員からの指導をまとめ、それに基づく考察を書く。レポート課題は、第11・12・14回の授業内で提示する。すべての提出物は、ポートフォリオにて提出し、次回の授業内およびポートフォリオにてフィードバックを行う。							
授業の概要							
スクールソーシャルワークの事例に対し、学生のディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを通じて、授業をすすめる。事例の内容は、不登校、発達障害、知的障害、いじめ、非行、経済的問題、特別支援学校、家庭訪問等である。模擬研修会は、学生が自ら設定したテーマについて、パワーポイントを用いて10-15分程度のプレゼンテーションを実施する。また、佐世保市青少年教育センターのスクールソーシャルワーカーから、実際の支援内容について聞き、現場の実践への理解を深める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：山野則子・野田正人・半羽利美佳編(2016)『よくわかるスクールソーシャルワーク第2版』ミネルヴァ書房 参考書：日本学校ソーシャルワーク学会編集(2008)『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規 指定図書：山野則子・野田正人・半羽利美佳編(2016)『よくわかるスクールソーシャルワーク第2版』ミネルヴァ書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で、次回までの予習・復習を提示する。指定された内容を実施してくること。</li> <li>・出席は最低限のルールとする。</li> <li>・授業内での居眠りや私語、携帯電話の無断使用などは厳禁とする。また、それらの行為については、教員から注意し、その後も改善が見られない場合は、退室を求める。</li> </ul>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション スクールソーシャルワーク における相談援助の事例①	授業の進め方や評価の方法を理解する。 発達障害が疑われる児童の保護者対応の事例について、スクールソーシャルワークにおける相談援助活動を理解する。(安藤・坂本)	予習：シラバスを読んでくる。 復習：演習日誌を作成し、ポートフォリオにて提出する。
2	スクールソーシャルワーク における記録の意義と実際	スクールソーシャルワークにおける記録における意義やポイント、方法について理解する。(安藤)	予習：配布資料を読んでくる。 復習：第1回目の演習日誌を書き直し、ポートフォリオにて提出する。
3	スクールソーシャルワーク における相談援助の事例②	知的障害の支援の必要性がある不登校児童の事例について、スクールソーシャルワークにおける相談援助活動を理解する。(安藤)	予習：p154-157を読んでくる。 復習：演習日誌を作成し、ポートフォリオにて提出する。
4	スクールソーシャルワークに おける相談援助の事例③	いじめ発覚時における初期対応の事例について、スクールソーシャルワークにおける相談援助活動を理解する。(安藤)	予習：p150-157を読んでくる。 復習：演習日誌を作成し、ポートフォリオにて提出する。
5	スクールソーシャルワーク における相談援助の事例④	問題行動から非行に至った中学生の事例について、スクールソーシャルワークにおける相談援助活動を理解する。(安藤)	予習：p174-177を読んでくる。 復習：演習日誌を作成し、ポートフォリオにて提出する。
6	スクールソーシャルワーク における相談援助の事例⑤	家出を繰り返す高校生の事例について、スクールソーシャルワークにおける相談援助活動を理解する。(安藤)	予習：p170-173を読んでくる。 復習：演習日誌を作成し、ポートフォリオにて提出する。
7	スクールソーシャルワーク における相談援助の事例⑥	特別支援学校・高等部の事例について、スクールソーシャルワークにおける相談援助活動を理解する。(安藤)	予習：p146-149を読んでくる。 復習：演習日誌を作成し、ポートフォリオにて提出する。
8	スクールソーシャルワーク における相談援助の事例⑦	校内ケース会議や連携ケース会議の事例について、スクールソーシャルワークにおける相談援助活動を理解する。(安藤)	予習：p120-125を読んでくる。 復習：演習日誌を作成し、ポートフォリオにて提出する。
9	模擬研修会の準備	模擬研修会の準備を行い、スクールソーシャルワークにおける研修会の意義・目的について理解する。(安藤)	予習：p126-127を読んでくる。 復習：模擬研修会で用いる資料をポートフォリオにて提出する。
10	模擬研修会の実施	模擬研修会を実施し、スクールソーシャルワークにおける研修会の意義・目的について理解する。(安藤)	予習：p120-125を読んでくる。 復習：模擬研修会を実施した感想をポートフォリオにて提出する。
11	事例のふりかえり	授業で取り組んだ事例を振り返り、スクールソーシャルワーカーに必要な援助技術について整理する。その上で、学生が4年生の実習で取り組みたいテーマについて整理する。第1回レポート課題を提示する。(安藤)	予習：授業で取り組んだ事例でもっとも関心の高かった事項についてまとめ、ポートフォリオにて提出する。 復習：授業の内容をまとめ、ポートフォリオにて提出する。
12	事例検討を通じてミクロプラクティス学ぶ	佐世保市青少年教育センターのスクールソーシャルワーカーの実際の取組について聞き、ミクロプラクティスについて理解する(ゲストスピーカー・実務家) 第2回レポート課題を提示する。(安藤)	予習：p114-119を読んでくる。 復習：授業の内容をまとめ、ポートフォリオにて提出する。
13	事例検討を通じてメゾプラクティス学ぶ	教育行政との協働システムの策定について理解する。(安藤)	予習：p120-123を読んでくる。 復習：授業の内容をまとめ、ポートフォリオにて提出する。
14	事例検討を通じてマクロプラクティス学ぶ	スクールソーシャルワークが広く子どもたちの代弁ができる位置にあることを理解し、新たな仕組みを開発する視点を理解する 第3回レポート課題を提示する。(安藤)	予習：p128-133を読んでくる。 復習：授業の内容をまとめ、ポートフォリオにて提出する。
15	まとめ	授業で学んだ内容を振り返り、4年生でのスクールソーシャルワーク実習で取り組みたいことを整理する。(安藤・坂本)	予習：授業で学んだことをまとめ、ポートフォリオにて提出する。 復習：スクールソーシャルワーク実習への思いを、ポートフォリオにて提出する。